

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／宮本 賢治

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

①例えば電気に関する法則や定理に係る自然現象やこれらを応用した身近にある電化製品を具体的に例示するなどして、学生が興味・関心を持ち、理解しやすいように授業を心がける。
②教員から学生への一方通行の講義にならないように、適宜、学生とディスカッションしながら授業を進める。また実習・実験、演習を多くして、学生が自分の頭で考えたり、実際に体験する機会を増やすことができるように工夫する。

2. 点検・評価

①例えば電気に関する法則や定理に係る自然現象やこれらを応用した身近にある電化製品を具体的に例示するなどして、学生が興味・関心を持ち、理解しやすいように授業を心がけた。
②教員から学生への一方通行の講義にならないように、適宜、学生とディスカッションしながら授業を進めている。また実習・実験、演習を多くして、学生が自分の頭で考えたり、実際に体験する機会を増やすことができるように工夫した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①前年度の授業評価結果を踏まえて、学生の理解や技能が授業の到達目標を達成できるように、授業の構成やテキスト、教材の工夫などの授業の改善を図る。
②修士の学生の研究と学部学生の卒業論文の指導に関して、授業実践を意識して学校教育現場で十分に活用でき得るような教材が開発し、質の高い論文を完成できるようにきめ細かく指導する。
③学生と密にコミュニケーションを取りながら、学部技術科教育コース3年生のクラス担当の任務を遂行する。

2. 点検・評価

- ①前年度の授業評価結果を踏まえて、学生の理解や技能が授業の到達目標を達成できるように、授業の構成やテキスト、教材の工夫などの授業の改善を図った。
- ②修士の学生の研究と学部の学生の卒業論文の指導に関して、授業実践を意識して学校教育現場で十分に活用でき得るような教材を開発し、質の高い論文を完成できるようにきめ細かく指導してきた。その結果、修士の各学生が学会発表を行うことができた。
- ③学生と密にコミュニケーションを取りながら、学部技術科教育コース3年生のクラス担当の任務を遂行した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①研究テーマの1つである負イオンビームの光学シミュレーションについては、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所、慶応大、都立産業技術高専等の外部の研究機関との間で共同研究を進めて、研究成果を学会で発表したり、学術論文誌へ投稿する。
- ②中学技術教育に関して、エネルギー変換に関する技術や情報に関する技術に係る教材開発を行い、研究成果を日本産業技術教育学会等にて発表する。

2. 点検・評価

- ①研究テーマの1つである負イオンビームの光学シミュレーションについては、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所、慶応大、都立産業技術高専等の外部の研究機関との間で共同研究を進めて、研究成果を学会(国際学会の International Conference on Ion Sourceやプラズマ・核融合学会)で発表したり、学術論文誌へ投稿し、2件(雑誌名: Review of Scientific Instruments、査読有り)acceptされた。さらに1件を Applied Physics Letters (査読有り)へ投稿し、現在、査読中である。
- ②中学技術教育に関して、エネルギー変換に関する技術や情報に関する技術に係る教材開発を行い、研究成果を日本産業技術教育学会(四国支部大会、情報分科会)にて発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学部入試委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

学部入試委員として本学の運営に貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

①情報教育に対する興味・関心を高める教材づくりとして、アナログ信号とデジタル信号とは何かを中学生でも理解できるように教材の開発を行ってきた。今年度においても附属中学校と連携して、教材開発と授業展開の方法についての研究をさらに進める。

②教員免許状更新講習を開設する。

2. 点検・評価

①情報教育に対する興味・関心を高める教材づくりとして、アナログ信号とデジタル信号とは何かを中学生でも理解できるように教材の開発を行ってきた。今年度においても附属中学校と連携して、教材開発と授業展開の方法についての研究をさらに進め、研究成果を日本産業技術教育学会(四国支部大会、情報分科会)にて発表した。

②附属中学校の第55回教育研究発表会の公開授業にて、指導助言者を務めた。

③教員免許状更新講習を行った。(平成23年8月26日、講習名:USBマイコンを用いた計測・制御)

④授業等を通して、中学校の技術の特に電気に関する分野について外国人留学生の指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)